

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	三ツ星名古屋工場 新工場物流棟	階数	地上4階
建設地	愛知県小牧市大字西之島字高拍子1818番1 他14筆	構造	SRC造
用途地域	工業地域	平均居住人員	130 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年9月 予定	評価の実施日	2024年6月21日
敷地面積	9,352 m ²	作成者	中島 幸辰
建築面積	7,106 m ²	確認日	2024年6月24日
延床面積	19,206 m ²	確認者	梅澤 力

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 87%
③上記+②以外の 87%
④上記+ 87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.5

Q1 室内環境 Q1のスコア = 0.0

音環境	N.A.
温熱環境	N.A.
光・視環境	N.A.
空気質環境	N.A.

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.7

機能性	N.A.
耐用性	3.0
対応性	4.4

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.7

生物環境	1.0
まちなみ	2.0
地域性	2.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.6

建物外皮の	N.A.
自然エネ	3.0
設備システ	4.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.4

水資源	3.4
非再生材料の使用削減	3.5
汚染物質回避	3.3

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

地球温暖化への配慮	3.5
地域環境への配慮	2.8
周辺環境への配慮	3.1

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p>0.0 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p>0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
三ツ星名古屋工場 新工場物流棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル		3.0	-	-	-	-	-	-	-	2.5
1.2 遮音		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 吸音		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 温熱環境										
2.1 室温制御		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 室温		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 外皮性能		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 空調方式		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 光・視環境										
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 方位別開口		-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御		5.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3 照度		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3.4 照明制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
4 空気質環境										
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
4.2 換気		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 換気量		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 自然換気性能		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
4.3 運用管理		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	0.43	-	-	-	-	-	3.7
1 広さ・収納性		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	独自	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 内装計画		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理		-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.5	3.0	0.52	-	-	-	-	-	3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-
		3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.2	0.33	-	-	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	2.0	0.23	耐久性の高い内装材を採用している。	-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	5.0	0.09	主要な用途上位3種の、2種以上にB以上を使用し、Eは不使用。	-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08		-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	5.0	0.15		-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23		-	-	-	-	-
2.4 信頼性		0.1	3.0	0.19		-	-	-	-	-
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20		-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20		-	-	-	-	-
3 電気設備	②	3.0	3.0	0.20		-	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20		-	-	-	-	-
5 通信・情報設備		3.0	3.0	0.20		-	-	-	-	-

3 対応性・更新性				0.4	4.4	0.48	-	-	-	4.4
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
	1 階高のゆとり			-	5.0	0.60	-	-	-	
	2 空間の形状・自由度			3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	5.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38	-	-	-	
	1 空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17	-	-	-	
	2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-	
	3 電気配線の更新性			3.0	5.0	0.11	-	-	-	
	4 通信配線の更新性			3.0	5.0	0.11	-	-	-	
	5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
	6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	-	-	1.7
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	2.0	0.40	-	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.7	3.0	4.0	0.63	-	-	-	4.0
4 効率的運用				0.2	3.0	0.25	-	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
	4.1 モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
	4.2 運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング			-	-	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.4
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
	1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.5	0.63	-	-	-	3.5
	2.1 材料使用量の削減			-	4.0	0.07	-	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25	-	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	②		-	3.0	0.21	-	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自		3.0	3.0	0.21	-	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
	3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.5	0.68	-	-	-	
	1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)			-	4.0	0.50	-	-	-	
	3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		①		-	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2 地域環境への配慮				0.3	2.8	0.33	-	-	-	2.8
	2.1 大気汚染防止			-	5.0	0.25	-	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	2.5	0.25	-	-	-	
	1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
	3 交通負荷抑制	独自		-	2.0	0.25	-	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
	1 騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
	2 振動	独自		-	-	-	-	-	-	
	3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
	1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
	2 砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
	3 日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
	3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20	-	-	-	
	1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策			-	4.0	0.70	-	-	-	
	2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

三ツ星名古屋工場 新工場物流棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.6
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	4.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 三ツ星名古屋工場 新工場物流棟

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・小牧市に新築される工場である。 ・高効率な設備機器の採用等により、CO2削減にも積極的に取り組む計画となっている。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・対象外。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さにゆとりを持った計画としている。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・視線を遮るような塀等を作らず、見通しの良い計画とすることで防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。
その他	